



ims

通信



2025年 4月号

春の暖かさが感じられる頃となりましたが、皆様お元気にお過ごしでしょうか。

「咲いた～、咲いた～、チューリップの花が～♪」の歌でおなじみのチューリップ色とりどりの可愛い花が特徴ですが、なんと曇りの日はチューリップの花びらが閉じているらしいです。チューリップの花って常に開いているイメージがあるので、本当なのかと疑いたくなります。そこで今回は、そんな疑問を解消すべくチューリップの雑学をご紹介します。

【チューリップの花びらが閉じるのは気温が関係しているため】

チューリップの花びらが、晴れた日は大きく開き、曇りの日は閉じている理由それは気温が関係しています。実はチューリップの花びらは、内側と外側の細胞が温度によって膨張・成長するという性質がある。内側...18～25℃ 外側...8～15℃ 上記のように2つの細胞の成長温度は大きく異なり、気温が18℃以上だと花びらの内側の細胞がググッと膨張していき、花びらが開く。反対に、気温が15℃以下になると外側の細胞が膨張し、花びらが閉じます。曇りの日だけでなく、気温が下がる夜も花びらは閉じ、朝から日中にかけて花びらが開いています。

【チューリップはトルコが原産国】

チューリップといえばオランダのイメージが強いが、実は意外にもオランダではなくトルコがチューリップの原産国なのです。「チューリップ」という名前の由来も、実にユニークでトルコ在住のオーストラリア大使がある日、チューリップを見て「この花は何か？」と質問したところ、花の形を聞かれたものと勘違いした通訳が、自分の頭に巻いているターバンに似ているなどと思い「チューリバン！」と答え、トルコ語でターバンはチューリバンといい、それを聞いたオーストラリア大使が花の名前と思い込み、現在の「チューリップ」という名前になったそうです。ちなみに、世界のチューリップ生産国で有名なのはオランダですが、日本は富山・新潟の二県。どちらも県花をチューリップとしています。

新生活に安心をお届け!!

4月に新生活、新学期を迎えるお子様へ傷害保険のおすすめです。お子様を取り巻くリスクはケガ、賠償責任、熱中症など様々です。春は体育の授業や部活動などスポーツが盛んになったり、通学時、放課後に自転車に乗る機会が増えたりすることでお子様のケガのリスクが高まります。暖かくなりより活発に活動したくなることで。弊社では各社傷害保険を取り扱っております。ご家族の安心のためにぜひ一度ご検討ください!

【七十二候】

七十二候(しちじゅうにこう)は、二十四節気をそれぞれ3つずつの季節に分けたもので1年では72の季節になります。自然に目を向けると、四季折々の季節の移り変わりを感じることができます! 毎月一緒に季節の移り変わりを感じましょう!

《今月の七十二候》玄鳥至(つばめきたる) 4月4日(金)～4月8日(火)

清明の初候となり、「燕が南からやって来る」という意味になります。玄鳥(げんちょう)はツバメ(燕)の別名です。日本で越冬するツバメもいますが、一般的には南方で越冬したツバメが繁殖のために日本に訪れるため、春になってツバメが南方から来る様子を現しています。



インスタ、ブログははじめました!!

ims社員の日々の出来事やつぶやき、情報提供など様々な内容を配信しております。毎日更新中! 下記よりご覧いただけます!

ブログ



インスタ



弊社HP



メールアドレス



災害時・緊急時含め弊社から情報提供をさせていただきます。

メールアドレス

ご登録の際は、本文へお名前(フルネーム)をご入力下さい!

〒239-0835 横須賀市佐原1-10-1
有限会社 im s (アイエムエス)
TEL:046-838-5522 FAX:046-838-5533